千歳町の藤居醸造は、昭和４(1929)年創業の焼酎蔵で、伝統的な製法で香り豊かな麦焼酎を造り続けています。令和４(2022)年からはクラフトビール工房も併設し、地元千歳町の新しい名所として親しまれています。



藤居醸造の商品

この４つの酒蔵は、「ぶんごおおの巡蔵(めぐるくら)」として市内で合同蔵開きを開催するなど、一丸となって地域の酒文化を盛り上げ、観光資源としても注目を集めています。豊後大野市の自然が育んだ味わい深い酒蔵の物語は、地域の誇りであり、今も大切に受け継がれています。

◇酒まんじゅう

豊後大野市に古くから伝わる郷土のおやつ。酒まんじゅうは発酵食品で傷みにくいため、農業がさかんなこの地区では古くから農作業の合間に食べる「小昼」と呼ばれるおやつとして親しまれてきました。麹の発酵する力を使ってふんわり膨らませるのが特徴で、ふっくらした食感で、優しい甘さと香りが楽しめるおまんじゅうです。市内には専門店が数多くあるほか、道の駅や農産物直売所などで売られています。見た目はあまり変わらないですが、その味は加工所によって伝統的に受け継がれてきた特徴があります。


酒まんじゅう

◇鮎うるか

大野川などの清流でとれる鮎を使った料理を一度は食べてみてください。鮎の身や内臓を塩漬けにして発酵させた珍味「鮎うるか」は、酒の肴やご飯のお供として親しまれています。



鮎うるか

（2）観　光

◇原尻の滝

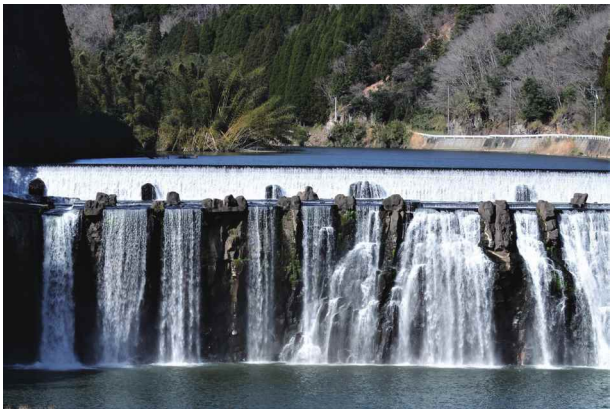
大野川の支流、緒方川にかかる滝で、幅は約 120 m、高さは約 20 mあります。およそ 9 万年前の阿蘇火山の 4 回目の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩が崩落してできました。滝の上流にある鳥居は、緒方三社のうちの二宮社の鳥居で、毎年の川越しまつりの際に神輿がこの鳥居をくぐります。



原尻の滝

◇沈堕（ちんだ）の滝 / 沈堕発電所跡

沈堕の滝は、大野川の本流にかかる雄滝と、支流の平井川にかかる雌滝からなります。雄滝は幅約 100 m、高さは約 20 mあります。室町時代に雪舟がここを訪れ、「鎮田瀑図（ちんだばくず）」を描いたことでも有名です。明治時代に建てられた発電所の跡も残されています。



沈堕の滝

◇岩戸の景観

大野川と奥岳川の合流点にそびえる絶壁を「岩戸の景観」と呼んでいます。崖の下半分は阿蘇火山の 3 回目の巨大噴火の火砕流、上半分が 4 回目の巨大噴火による火砕流でできています。崖のまん中に JR 豊肥本線のトンネルが掘られており、鉄道写真の絶好の撮影ポイントとなっています。



岩戸の景観

◇滞迫（たいざこ）峡

滞迫峡は、奥岳川沿いの峡谷で、両側を柱状節理の発達した溶結凝灰岩の絶壁で囲まれています。崖の高さは、70 mにおよびます。谷底には、およそ 1500 万年前の火山活動でできた岩石が露出しています。少し上流には、火砕流で蒸し焼きになった炭化木が埋もれた洞窟もあります。



滞迫峡

◇松尾の埋没木（まいぼつぼく）

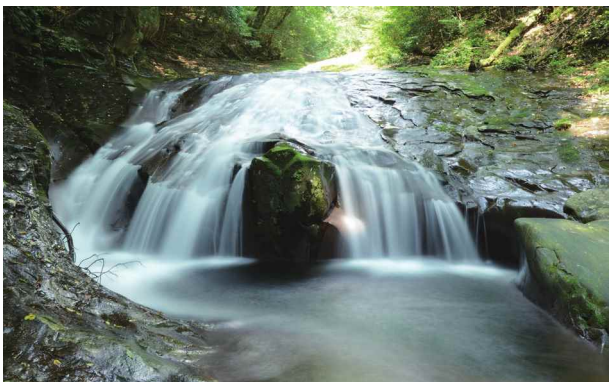
旧三重南小学校（現あかい屋根の郷）の校庭に保存されている木の幹は、近くの沢の谷底に埋まっていたものです。阿蘇火山からの火砕流は山を越え、木々をなぎ倒して流れ下りました。なぎ倒された木は火砕流に埋められ、蒸し焼きにされました。そのため木の表面は黒く炭になっています。



松尾の埋没木

◇川上渓谷

川上渓谷は、奥岳川の最上流部にあたり、春は新緑、夏は避暑、秋は紅葉と、季節を問わず楽しめます。河床には白っぽい花崗岩が露出し、深い森林とのコントラストを際立たせています。また、絶滅危惧種に指定された珍しい植物も自生しています。


川上渓谷

◇祖母・傾山系

日本百名山の一つである標高 1,756 mの祖母山から、古祖母山、本谷山を経て傾山に至る稜線は、約 1,500 万年前に噴出した火山岩類からなる急峻な岩壁がそびえ立つ独特な景観となっています。春にはアケボノツツジが咲き乱れ、特別天然記念物のニホンカモシカが生息するなど、生物の宝庫としてユネスコエコパークにも登録されています。


傾山の山頂


祖母山の山頂

◇手取蟹戸（てどりがんど）

手取蟹戸は、大野川の急流で、約 9 千万年前の海の底に堆積した大野川層群という地層が露出しています。地層は地殻変動で大きく傾き、戸板を立てたように見えます。流れが急で、蟹も流されないように岩の上を歩くため、その蟹を手で取ることができることから名づけられたと言われています。


手取蟹戸

◇江内戸の景（えないどけい）

九州屈指の河川である大野川は、阿蘇火砕流で埋め尽くされた大地を浸食し、両側に平坦な土地を生み出しました。「道の駅みえ」から眺められる風景は「江内戸の景」と呼ばれ、豊かな穀倉地帯をゆったりと流れる大野川を望むことができます。


江内戸の景